



大分県立竹田高等学校
同窓会
第46号

発行者・会長 松島修二
編集者・委員長 田部修士
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市泉区和泉町 4384-2
電話 045-803-5677

<http://www.geocities.jp/kantohaketa/>

関東同窓会

当番幹事 蓮池智子(昭和47年生)

第27回総会・懇親会

とき・平成25年6月15日
ところ・東京プリンスホテル

平成25年6月15日、関東同窓会当日は、寒気を伴った気圧の谷が通るため関東地方は所々で雨との天気予報、雨が降ったら出かけるのがよだきいなあと思っていたが曇り、よかったです。実は、事前に開催の幹事会で配られた出席予定者一覧の中に、城原幼稚園から一編だった米納の陽ちゃんや、双城中学校から一編だった志主知ん直ちゃんたち地元組の名前を見つけて、わざわざ上京してくるのに雨が降ったらせつちいなあと心配していた。なんとか傘の出番が来ませんように。

会場は東京タワーの足下、東京プリンスホテルのプロビデンスホール、総勢237名を迎えての開催です。井手得郎幹事長による総会開会宣言、物故者による総会開会宣言、物故者を悼み一回黙祷、校歌斉唱を経て松島修二関東同窓会会長のご挨拶と会計監査報告が行われました。

ご来賓は、藤原竹田高校校長、後藤同窓会長、秦PTA会長、首藤竹田市長、橋本豊後大野市長、辻竹田会会長、阿南大分県東京事務所長、塩月大分・東京高友会会長、三重野東京豊工会(大分工業)副会長、都留国東高校東京同窓会事務局長、山田在京高田高校同窓会副会

長、生野三重高校同窓会東京支部長、岡本三重農高同窓会関東支部副会長の皆様です。また、竹田市から当番幹事と同学年の多数の仲間が上京し、懇親会の運営にご支援を頂きました。

藤原校長より「昨年夏の水害では在校生8名の負傷者を出したものの今も力強く復興に邁進している」と母校の近況並びに生徒のインターハイ山岳での活躍など報告があり、後藤同窓会会長からは「盛大な総会をお祝い申し上げる。また同窓会員の日ごろの故郷への篤い思いに感謝いたします」とのご挨拶を頂きました。

続いて、首藤勝次竹田市長が登場され、「皆様との再会を楽しみに上京してきました。竹田は過去30年間で5回もの水害に見舞われたが、その度に復興を遂げてきた。また多くの方より励ましを頂き感謝している。文化会館が3メートルあまりの濁流に飲み込まれ、現在まで復旧



ご挨拶される首藤市長

の日鬼が立っていません。竹田から先が不通となっていたJR豊肥線は7月中には復旧の見込み(その後8月4日に開通)で爆発の足が確保される。10月には、赤坂中央ビルに竹田市の東京オフィスが開設予定で竹田と東京を結ぶ新たな絆としたい、橋本豊後大野市長からは、「豊肥沿線を守るのが豊後大野市の使命」と力強い挨拶を頂きました。

さて、いよいよ、26年卒業の長吉泉様の乾杯のご発声により懇親会のスタートです。今年の関東同窓会は「水害から立ち直ろう」と願う故郷の友達に、関東で暮らす私たちがエールを贈ろう」をテーマに据え、47年卒と57年卒が力を合わせ計画しました。



最初のアトラクションは復興支援コンサートです。竹田市で毎年行われ今年で67回を迎える「龍廉太郎記念 全日本高等学校音楽コンクール」、通称。たきれん。の会場とされてきた竹田市文化会館の惨状に心を痛められた佐賀出身の紀野洋孝さん(テノール)が発起人となり、今年の3月東京の北とびあつつじホールでチャリティコンサート「Konzerter, KOJO」を開催、収益金の一部が「文化会館等復興基金」にご寄付されました。今回関東同窓会への出演をお願いしたところ、お仲間方々ともどもご快諾いただきました。別府出身の首藤玲奈さん(ソプラノ)、大分出身の山口優里菜さん(メソソプラノ)、岡山出身の福田恭子さん(琴)、千葉出身の平川加恵さん(ピアノ)、総勢5人による演奏です。曲目は「花」「乾杯の歌」「春の海」「メヌエット」「愛燦々」「川の流れるように」「珊瑚色の地球」「さくらさくら」「オーソレミオ」と続きます。

紀野さんお声がすばらしい、さすが第60回。たきれん。で第1

会計報告

収支計算報告書

(平成24年4月1日より平成25年3月31日まで)

1. 収入	
①維持会費	1,707,000円
②総会会費	1,728,000円
③総会祝儀	130,000円
④寄付収入	10,000円
⑤受取利息	254円
計	3,575,254円
前期繰越	2,485,073円
合計	6,060,327円
2. 支出	
①総会費	2,076,746円
②会報費	772,076円
③会費	317,291円
④ホームページ費	6,300円
⑤当番幹事助成金	50,000円
⑥慶弔費	3,024円
⑦寄付金	150,000円
⑧事務通信費	306,300円
計	3,681,737円
次期繰越	2,378,590円
合計	6,060,327円
3. 次期繰越の内訳	
①現金	42,228円
②預金	2,336,362円
計	2,378,590円

上記のとおり報告します。

位に輝いた方です、恰幅も良くほれほれします。クラシック界の松田聖子と呼ばれるいる首藤さんはじめ女性陣もすばらしい歌や演奏で、ドレスもすてきです。「荒城の月」と「ふるさと」は私たちがみんなと合唱させていいただきました。

名古屋から駆けつけた42年卒山本さん(東海大分県人会・会長)より「同会の40周年を記念して、来年は名古屋でも竹田会を開催する計画です。是非多くの方に集まって欲しい」との報告がなされました。

昨年都会から竹田にUターンし、現在は、空き家バンクで移住者の支援をされている桑島さん(平12年卒)は、「地元に戻ると街中の騒りある部分を歳とともに感じるようになり、田舎の100年後を見据えた活動を次の世代へと引き継いでやっ

ていくことが欠かせないと考えて、CHERRY TAKERET A.の地域活性化へ向けた活動を始めました。情報最先端の東京と田舎最先端の竹田の両極端を結ぶと新しいものが見えてくるのではないかと思う。東京からのご支援をお願いします」と報告がありました。

楽しい時間は瞬く間に過ぎ、椎茸などの竹田・大野名産品のチャリティー販売も全て残らずに完売。最後は再会を誓い、恒例のストーム、「戦い勝てり旨酒を汲みて称えん」の大会奏で懇親会の幕が下ろされました。久々の同級生との再会、遠路故郷から駆けつけてきた友との再会には話はずみ、夫々二次会、三次会へと会場を後にしました。来年もまた楽しい関東同窓会が開催されますように！

編集委員にて参加禁止をしています。

フォトで綴る!!

第27回 総会・懇親会風景



司会の竹内さんと米田さん



長吉先生による乾杯のご発声



横本社輔豊後大野市長



全員で「荒城の月」「ふるさと」を合唱



松島会長ご挨拶



ハーモニカをご披露される本田さん



竹田会恒例のストーム



復興支援コンサートのお仲間



歓迎遠足

会員の皆様には、平素より母校の教育の振興につきましまして、特段のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成25年3月1日195人の生徒が母校を巣立ち、大学入試では、東北大、立教大、大阪大、防衛大、同志社大等の合格を得ました。また、4月9日には160人の入学生を迎えることができました。

毎日の授業、各種考查に真剣に取り組むことを中心に、生徒会活動や部活動に精を出し、歓迎



校長 藤原 崇能

故郷竹田高校から



高校総体



インターハイ登山競技

迎遠足、教育合宿、高校総体、(山岳部男子地元開催全国総体6位入賞)、臥牛祭等々の行事があり、記録的な猛暑も無事乗り越え、竹高生は、順調に成長を遂げています。

今後は11月22日独歩大会、12月11日~15日修学旅行(全東京泊)を予定しています。

来春の竹田市の中學校卒業予定者数は当校にとって大変厳しいものとなっておりますが、故郷竹田高校、竹田、豊後大野の今後、将来像について思いを巡らしていただき、皆様のご協力、力強いご支援をお願い申し上げます。

終わりになりますが、速く開

表し、故郷に今を生きて心一つをぜひご披露させていただきたいと思えます。

会員の皆様のご健康、ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

東の地で、故郷竹田高校を、幾多の試練を乗り越え、日本の復興と繁栄に貢献されてきた方々に、改めて敬意を



サマーコンサート

私たちが竹田のため「できること」

生徒会長 堀 しおり

私は、豊後大野市三厘町からJ日で三十分かけて竹田高校に通っています。最初に聞いたことは、駅から学校まで、コンビニエンスストアが一つもないことでした。二十四時間開いているお店のある

生活に慣れてしまっている私たちにとって、不便に感じることが数多くありました。しかし、一年たつて最近考えることは、私が今通っているこの町なみち地域の人が、大切に守ってきたものであり、またそこには多くの人々の生活があるということです。

竹田には長い歴史や文化があり、その地に根ざす竹田高校の生徒です。竹田高校にも大切に守っているものがあります。それは「あいさつ」です。私たちが地域の方に「あいさつ」をする、いつも笑顔で返してくれます。「あいさつ」は竹田高校の先輩方からずっと受け継がれている伝統です。「あいさつ」をするという事は、私たちが竹田高校生にとって、地域の人々と繋がることができ大切なものなのです。

地域の方々はいつとも優しく、私たちを見守ってくれています。竹田高校生が良い事をすると思ってくれます。逆に悪いことをすると、きちんと注意してくれます。その事を通して、私たちは地域の方々に大切に思われていると実感することが出来ます。

このように、竹田高校の長い歴史や、私たちが竹田高校生は、ずっと地域の人に支えられてきたと云えます。だから今でも、私たちは落ち着いた環境の中で高校生生活を送ることができています。後輩たちにも、今のよさな生活を

送ってもらえるように、「あいさつ」をするという伝統を私たちが継承し、次の世代へと受け継いでいくことが大切だと私は思っています。

私は今、竹田高校で生徒会長をしています。私が竹田高校について考えたとき、「一和」があらうと思いましたが、「一和」というのは、互いに相手を尊重し、助け合うという意味です。そしてその「一和」は、地域の方々とも成り立っていると思っています。現在若者が少なくなっている竹田の町ですが、竹田には私たちが竹田高校生約四七〇名がいます。竹田高校では、クリーン作戦などのボランティア活動を通して、これからも地域の方々との協力し、「一和」のある関係や活動を続けていきたいと思っています。

駅から学校までの道のりで、私たちは地域の方々のあたたかさだけでなく、四季を感じることもできます。暑い夏があり、たんたん過ごしやすくなったことで秋を実感します。厳しい冬があり、陽気が暖かくなったことに春を感じます。そんな四季折々の自然と人々の生活を感じることが出来る竹田の街をこれからも大切にしたいと思っています。

また昨年の九州北部豪雨の被害から完全に立ち直ったわけではありませんが、しかし、私たちが竹田の街を大切にすれば、竹田の地に多くの笑顔が戻って来ると思っています。

クラス会・同期会

関東地区

三三会同窓会

高橋 勝和 昭32年卒

昭和三十三年から始まった三

二会は今年で五十年続いております、今年二十五年度は陽春の好日和四月十八日、九段のホテルグランドパレスにて二十名の集いでした。夕刻五時より幹事句坂慎輔君の名司会で速くは難島新島村から藤原保範君もかけつけ懇親会が始まり竹高時代の想い出話に笑いや美酒に酔いあつ



同期会

と云う間の三時間がすぎ一次会は二十三階ラウンジにて行い話はずし十時すぎ又来年の出逢いを約束して散会しました。やはり高校時代の同友は何年たっても懐かしく愛しいものです。

関東竹菁会 60周年記念同窓会

平成25年度幹事
山下 一意 昭27年卒

昭和27年竹
田高校卒業以
来、行雲流水
いつしか時は
流れて、今年



60周年の節目の年を迎えました。戦後の風雪を駆け抜け、今日までたどり着いた来し方を思うとき、悲喜こももとうたた感慨無量に耐えない。この間何人かの友は、速く黄泉路を旅立って逝きました。昨今、生者必滅、会者定離、の感慨がとみに身に沁みてならない。

私達が初めて東京で同窓会を開いたのは、今は亡き後藤浩一君の呼びかけで、昭和56年6月日比谷公園の、松本楼、でした。以来毎年幹事は替わり、会場も



都内からある時は横浜で、またある時は葛飾栄又で、延々30余年に亘り毎年続けられてきました。

会場を何処に移しても宴会の最後は、決まって母校の校歌の合唱で幕を閉じます。年経りて、過ぎ去った遠い青春の昔に想いを馳せ、共に肩を組みながら声高らかに歌うとき、故郷の山河が臉に浮かび無上の喜びに酔い痴れるのである。

今年の60周年同窓会は、生涯のこよなき思い出に、帝国ホテルの、菊の間、に男女20名が一室に会し、楽しい宴のひと時を過ごし、またの再会を期して別れて行きました。

竹菁会の 由来について

山下 一意 昭27年卒

当時、竹田高校で音楽の教師をしておられた藤 三郎先生が(私達は昭和21年旧制竹田中学校、及び竹田高等女学校の最後

もう一つの総会・懇親会

当番幹事 兼池哲子さんよ

り、臥牛の表紙ページに収まり切れない力作原稿を頂戴している、その一部をこのページで紹介いたします。(編集委員)

ちよつとローカルなお話になりませんが、私達60歳の同級生の、料理とお酒で楽しい会話を紹介します。面影のある人、面影のない人、面影があつても髪は薄くなつている人、ふふふよになつた自分の頬やお腹は顔に上げ、名札だけが頼りですが、それも老眼でよく読めません。思い出してもらえない悲しさを避けるため、自分から名乗ることになりました。

「お十期 さん 百ちゃんじゃ、私さど、わかる。久しぶりじゃねえ。今なにしちやるん？」

「そいださつちゃんじゃ。すぐわかるわ。今、中津ん少年院におるんじや」

「えつ、なんで少年院に入つちやるん？」

の入学生で、中学時代先生から懇切に音楽を教わった。昭和27年我々が竹田高校を卒業するに当たり、饒りに贈って下さったものです。竹が青々と生い茂る。意味だそうです。

その後、先生は昭和30年ごろ竹田高校を退任されたようです。

「お十期 さん、懐かしくなりました。藤村ん校長に呼ばれてこつてり絞られた。温情でなんとかお話は免れたんよ」

「えつ、藤村ノノエちゃんのお父さんに。今では会社の重鎮になり、明日からインドネシアの工場に出張とのこと。」

「最後大野市の橋本市長は同級生よ」

「竹田市長の奥さんは同級生の千恵子ちゃんよ」

「えつ、驚くことばかりです。みんなそれぞれの場所で大ましく地に足をつけて日々過ごされてるようであつてうれしくなります。私もこつちが痛いあつちが痛いばかり言わないでもう少し頑張りますよ。」

ステージでは竹田から駆けつけてくださった同窓生のお話が続いていきます。

「東京デイズーランドとスカイツリーに行きたいばかりに、よつたりでよだつてするすると関

我が同窓会の大先輩

濱口 鈴子さん

今年(平成25年)3月3日に岡本小学校の閉校記念式典があり、同窓会の濱口鈴子さん(昭和26年卒、旧姓佐藤さん)から閉校記念誌「しらぼと」が私の手元に送られてきました。

その中に昭和20年岡本小学校卒業を代表して濱口さんが、思い出の記。を書かれています。皆様には是非ご紹介したいと思いい出の記。から一部を抜粋して掲載いたしました。

田部 修士(昭和42年卒)

以下濱口さんの「私の原点」より抜粋

竹田小学校を1年行く。なぜか2年生になる時三宅に引っ越す。2階屋の前を竹田へ向かうSL機関車が黒煙を吐きながら走る不思議な光景に見惚れる。転校の初日、刺繍を施したひよこ型のポケットを付けた若草色のスカート、白の上着、ピロイドの靴を履いていく。仮校舎だった田近さんの御堂で勉強した記憶がある。15年11月に新校舎が完成、全員で50人足らずのクラス、男女共学で出発した。担任は宇野トシ子先生。

岡本小学校の沿革

明治7年	三宅学校仮設 (現在の坂上 伊東金十郎氏宅)
明治20年	三宅簡易学校と改称
明治26年	岡本尋常小学校と改称
明治41年	岡本尋常高等小学校と改称
昭和16年	岡本国民学校と改称
昭和22年	竹田町立岡本小学校と改称
昭和29年	竹田市立岡本小学校と改称
平成25年	閉校

……3年生の暮、大東亜戦争が勃発。両親と雑音が酷いラジオを聞き入る。4年生になった時首藤廣基先生が赴任して来られた。山羊のような顔で歯が白く出っ歯だったが笑顔がやさしかった。海軍将校のような深い紺色の詰襟の上着、前が掛けボタンで格好良かった。「気をつきや！敬礼！」と統率、姿勢を正した。



おばさん善長 平成25年9月

……学校では校舎の東端に皮を兵士の服にするウサギ小屋を作った。また体力増進として夜中より城原八幡様を目指して行軍、夜明けに着いて帰り道は腹ペコで息絶え絶えに帰校した。……当時子供達の毎日は、帰宅後は水汲み、薪拾い、草取り、ご飯炊き、田植え補助りの手伝い。もちろん靴はなく、近所の渡辺さん宅で草履の作り方を教わった。道具はなく瓦けりをして爪先は血だらけだった。当時の校長は橋爪周馬先生。いつも国防色の服を着て、背は低く痩せ型、ギョロ目顔が広く戦闘帽を被って直立不動。男の子とつかみ合いの喧嘩をして一喝されたが、いつも慈愛に満ち威厳があったので苦にならなかった。20年になる若林巻をして竹植の練習、わら人形に向かってエイと一突き。しかしどこも引揚者、疎開者で食料は不足、栄養失調で戦意も生きる希望も無くなった。そのような社会情勢の中勉強はできなかつた

「入っちよるんじやねえよ、働きよるんよ」
 「あーびつくりした。悪いことしたんかと思つた。そやけんどうも定年じやる。」
 「いんや、また家のローンがあるけん、働かん」と
 「志守知に家建てたん？」
 「いんや、三重に新しく家建てたんよ。志守知ん家は去年の水害で流されたけん」
 「そつじやつたんじや。大変じゃつたなあ。しんみりしてしまいました。娘さん二人も既に嫁がれ、お孫さんもちいらつしゃるところ。また最近、末っ子の息子さんも結婚され、早く内孫が生まれないかなと願いながら、中津で頑張つていらつしゃる由」
 「だから高校の時、謹慎受けたもんおるや」
 「あつちからもちつちからちハイハイと手が挙がります。えつ、こんなにならん。知らんかった。なんで？」
 「秋祭りん後、家に友達が何人も寄つて、酒飲んだんがばれちしもたんよ」
 「俺は〇マ×で」

東同窓会までやって来ました！
 「生まれて初めての東京で感激しました。」
 「いえいえ、ついででも結構です。昌子さん、鈴子さん、保美さん、嘉恵さん、よくいらして下さいました。懐かしい竹田訛りが聞けてうれしかったです。」
 推薦などの竹田大野名産品のチャリティー販売も全て完売。ありがとうございました。
 懇親会司会の竹内裕二さんと米田悦子さん、お疲れさまです。遠慮にあられるそうでも遠慮で息がびつたり合っていましたね。悦ちゃんの加賀友神とても似合っていました。
 締めはやはりストームですが、しら真刺飛んだり跳ねたりできた頃と違って、悔しいけど随分おとなしいストームになつてしまいました。身体を鍛えねば！では皆さま、またお会いする日まで。



上京して57年余り、今年草薙の資格を取得して朝から晩まで3〜4軒、バイクに乗り部心の車の雑踏を縫って走り回っています。

特別寄稿

滝廉太郎

(1879-1903)

が 作曲した「卒業式歌」

田部 修士(昭和2年生)

竹田市役所・文化財課の佐伯治さんから新聞の切抜きを頂き、その内容に大変驚いた。そこには、明治時代の唱歌を研究されている大阪大学の坂本基彦名誉教授が「愛知教育大付属図書館が収蔵する『新選国民唱歌』(1900年2月22日発行)の第1集の中に未確認だった『卒業式歌』を見つけた」と書かれていました。

かつお母さんの心の内を想像すると、実につらいものがあります。その中にも未発表曲が沢山あったそうです。

ところで、「卒業式歌」は、作歌・失名氏、作曲・滝廉太郎と書かれており、五線譜と数字譜とで表記されています。数字譜は、今では目にする機会もなく馴染みがありませんが新聞切抜きをご参照下さい。

齊藤教授より連絡を受けた大分大学の小長久子名誉教授(滝廉太郎の研究者)は、「編者の小山作之助は、滝廉太郎の恩師。作歌の失名氏は小山作之助ではないかと推測できる」と話をされているそうです。

若くして結核で亡くなられた滝廉太郎の所持品は、病気を広げない為というその当時の医学の事情からお母さんの手により、ほとんどが焼かれてしまったそうです。そうせざるを得な

小山作之助さんは、東京音楽学校(現東京芸術大)の教授などを務められ、滝廉太郎が同校在学中に音楽理論や歌唱教授法などを学んだ師弟の間柄だったそうです。

ところで、この「卒業式歌」については、11月8日の竹田会にて、桐朋学園芸術短大の生徒さんにより披露される計画が進んでいます。今年7月に、桐朋学園の生徒さんにこの記事をお見せしましたら大喜びで、是非



本田博教(昭和40年卒)

1900年2月22日発行の『新選国民唱歌』に掲載された滝廉太郎作曲の「卒業式歌」の歌詞と楽譜。作曲者名に滝廉太郎と記されている

卒業式歌

ワケ

卒業式歌
作詞 失名氏 作曲 滝廉太郎

ワケ
卒業式歌
作詞 失名氏 作曲 滝廉太郎

2011年5月23日 大分合同新聞

「卒業式歌」

(一)をさめしわざの数々は
我身の為と國のため
学びし事を本として
田つくりたくみあきなうも
いそしみ助み身をたてて
人も富まし世を富まし
やしまの民のさどき名を
外国までもかがやかせ

作曲・失名氏 作詞・滝廉太郎

(二)をさめしわざの数々は
我身の為と國のため
学びし事を本として
而ともなりつ城となり
力をつくし身をつくし
君をも守り世を守り
やしまの民のたけき名を
外国までもかがやかせ

竹田会で演奏してみたいのとこのとでした。まさに竹田に縁のある私どもにとって初公開で、期待しています。(竹田会は11月

8日ですから、臥牛が発行される頃には、多くの皆さんが知るようになると思います。)

桐朋学園
音楽&演劇ファクトリー
「Spiel x Spiel」

「音楽劇 滝廉太郎物語」

作・演出 柴田 千絵里

滝廉太郎の23年という短いながらも仕途な人生を追って行く音楽劇。物語は、昭和と明治を行き来する。廉太郎と共に、「お正月」や「鳩はっば」など、多くの作品を作った東クメの思い出と、今も残る廉太郎の作品の数々を物語を通して繰り広げる、1時間30分の作品。

滝廉太郎の生涯、
音楽劇に

桐朋学園芸術短大卒業生が制作



声楽の坂本明佳さん(26)は第59回滝廉太郎記念・全日本高校声楽コンクール(2005年)に出場しており、「岡城跡を訪れ、こけむした石積みを目にして初めて、荒城の月の曲の意味が分かった。今回の出演は巡り合わせだと思ふ」と笑顔。

作・演出の柴田千絵里さん(26)は「現地の空気を感じる」と作品も変わってくる。ぜひ大分でも上演したい。今度はせりふに大分県も取り入れたたいですね」と話した。

ふるさと名所紀行

工藤一記と夏目漱石

元竹田市立図書館長 本田 耕一

工藤一記は嘉永六年(一八五三)に岡藩士飯倉重章の五男として生まれた。二十歳の時、愛宕谷の工藤祐寿と養子縁組により工藤姓となった。その後、大阪師範学校を経て宮内省御用掛となり、明治二十一年(一八八八)に学習院教授と幹事を兼任することになった。したがって、学習院教授の採用試験についても関わるようになった。明治二十六年(一九一三)東京帝国大学大学院生の夏目漱石は、学習院に就職を希望して採用されたものと思ひ込み、就任のためモーターで用意していた。ところが、意外にもアメリカから帰国した重見周吉が採用された。このため、落胆した漱石は松山や熊本など地方の教職に就き、明治三十三年(一九〇〇)に英文学研究のためロンドン留学をすることになった。ロンドン漱石記



工藤一記

念館長の恒松都生氏は、この留学がきっかけとなり漱石が作家の道を進むようになったという。これに対し漱石研究者の荒正人氏は、漱石が大学院在籍中に学習院の就職に失敗したことを、知っていたのではないかと推測している。また、一記は漱石を推薦していたという。いずれにしても、漱石の学習院就職については、一記が関わっており、漱石の進路を変えた人物として注目された。平成二十五年五月に大分県立先哲史料館が展示した野上豊二郎(野上弥生子の夫)宛ての漱石書簡には、母校の東京帝国大学教授の就任を断わり朝日新聞社に入社して、作家の道を目指したいと記されている。「世の中はみな博士とか教授とかを左も右も嫌いなもの様に申し候」、また教授は偉い人と皆が思っているようだから、自分は野に下って運命に任せようと悲観的な心境を述べている。学習院就職が叶わなかった反動から、大学教授嫌いになっていったことは間違いない。一記が漱石の将来を変える一端を担ったと言えそうである。

漱石は慶応三年(一八六七)生まれで、廣瀬武夫は翌年の慶応四年(一八六八)生まれである。廣瀬武夫の漢詩を多くの人が称賛するが、漱石も漢詩は得意であった。漱石は軍人廣瀬武夫の活躍を称える気持ちで強く、漢詩について関心が深かった。明治三十五年(一九〇二)三月二回日の旅順港閉塞で、福井丸の石田機関長のハンカチに書いたといわれる「正氣歌」は、よく知られているところである。この歌は、宗の文天祥が王朝に忠誠を尽くすことを示した詩を基底にしている。「漱石詩集」によれば、漱石は当時の青年たちが慷慨家列伝に加わりたいたいと願望からつくった詩と大差ないと評している。つまり、偉大な軍人の残した詩だけに、あまりにも個性のない平凡なものである。壮烈な行動をとる勇氣はほとんどない人の、虚勢をはる陳腐な詩よりは優れているが、少し物足りなさを感じるといえるのである。漱石が廣瀬武夫の漢詩について触れているのは正氣歌だけであるが、書簡や漢詩について、もっとと研究していたなら認識も違っていたであろう。廣瀬武夫の漢詩の知識は、秦州遠航に同行した徳富蘇峰を脱帽させた。しかも、誰にでも理解できる詩でなければ意味がないという武人の措辞に感じ入った。つまり、どんなに秀作であっても漢詩の心が伝わらなければ、単なる自己陶酔にすぎないというのである。漱石が誰にでも伝わる漢詩を理解していたならば、評価も異なっていたにち

がいない。

ところで、一記は廣瀬家と親交があり、廣瀬兄弟は度々一記の家を訪ねていた。廣瀬武夫は宿泊しても礼儀正しく寸暇を惜しんで読書していたという。また、兄勝比古の仲人を一記が務めた。宮内省退官後も宮中顧問官となった一記は、山下公園に建てていた廣瀬中佐銅像銘などの撰文を残している。

一記は、漱石をどのように見ていたのだろうか。また、漱石は、一記と廣瀬兄弟の高誼を知る由もなかったが、漢詩では特別な思いを寄せていたのである。

正氣の歌

死生 命有り 論ずるに足らず、
 鞠躬 唯だ應に 至尊に酬ふべし。
 奮躍 難に赴きて 死を辭せず、
 慷慨 義に就く 日本魂。
 一世的義烈 赤穂の里、
 三代の忠勇 橋氏の門、
 憂憤 身を投ず 薩摩の海、
 從容 死に就く 小塚原、
 或は 芳野 期前の嶽と歸り、
 凛烈 千載 鐵嶺を見る、
 或は 宮家 筑紫の月と歸り、
 何 忠愛を存して 愛を知らず、
 見可し 正氣 乾坤に滿つるを、
 一氣 磅礴して 萬古に存す、
 嗚呼 正氣 畢竟 誠の字に在り、
 嗚呼 何ぞ必ずしも 多言を要せん、
 誠なる誠 誠なる誠 驚れて已まず、
 七たび 人間に生まれ 誠風に嘯いん。

新刊の予告

「戦国武将・佐久間盛政」

平成25年9月3日 桜田 啓
先日、辻野 功先生から「戦国武将の佐久間盛政を書いてみませんか」という要請を受けました。しかも、資料は、由布市在住の佐久間家第16代当主、佐久間忠弘氏から提供して頂けるとのこと。

岡藩初代城主中川秀成公の正室は、佐久間盛政の一人娘・虎姫です。盛政は織田家随一の猛将で「鬼玄蕃」とあだ名され、初代加賀国金沢城主であった。

図書紹介

田部 修士(昭和42年生)

「瑞穂を平らげく 安らげく知ろしめせ」

著者▼佐野文夫・発行▼平成25年5月・発行所▼佐伯印刷廠

現在の大半界を舞台に展開さ



佐藤相談役(書道七段)が、8月に行われた日本書道協会主催による総合書道展にて、全国数万点の応募作品の中から、見事賞賞を受賞されました。

本能寺の変の後、秀吉と柴田勝家が戦った「賤が岳の合戦」では、伯父勝家の総大将として奮戦し、秀吉側の先陣大将中川清秀を破った。しかし、秀吉本軍の進出で、佐久間盛政もまた捕らわれた。秀吉は、盛政を自分の家臣にしたかったが、盛政がこれを断つたため、やむなく斬首した。しかし秀吉は、仇敵同士である盛政の娘虎姫と、中川清秀の嫡子秀成を、結婚させ、岡藩藩主とした。虎姫は、中川家臣たちの心境を思い、生涯竹田に住むことはなかったが、大婚仲はよく、多くの子供に恵まれた。その子供たちが、佐久間家を再興し、菩提寺を英雄寺

と定め、佐久間家の当主は代々竹田に住んだのである。

昨年5月、「石川県金沢観光大使・加賀百万歩の会」一行20名が、佐久間家当主を表敬訪問し、竹田市の首座市長とも交流を持たれた。

先日、新宿で「石川県人祭」が開催され、この際に石川県知事の谷本政憲氏と面談し、「金沢に来る日をお待ちしています」との言葉をいただいた。その旨を佐久間当主に伝えたところ、たいそう喜んでいただいた。

以上の流れ(縁)から、佐久間盛政と虎姫についての小説を執筆する予定でいます。

れる聖徳太子の父君・用明帝の物語。若き日の用明帝・若宮山路が幼少時から抱いていた中華、天竺、西国ベルシヤ修業の夢の修行の旅にでる。旅の中心へ、かつて第十二代、景行天皇、日本武尊と対峙した竹田の土蜘蛛一族も出てきます。



「取り上げた時代が日本古代史の原点とも言うべき時代で、聖徳太子の伝えの誤謬も指摘されつつあり、その時代をまっすぐに見つめられ、ここに着目されたことに敬意を表します」とのお便りを頂いたそうです。その後、再度お便りが届き、「用明帝の政治目標の実現を志す藤原鎌足の近江令までお書きになっては」とのお奨めもあったそうです。

訃報

慎んでお知らせ申し上げます。心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

- 茂島 貴裕 様(昭和28年生) 平成24年10月25日 没
 - 橋本 欣也 様(昭和20年生) 平成25年1月20日 没
 - 宮原 敬 様(昭和19年生) 平成25年1月21日 没
 - 栗 寿彦 様(昭和16年生) 平成25年2月5日 没
 - 足立 夫美 様(昭和33年生) 平成25年3月1日 没
 - 渡辺トシ工 様(昭和10年生) (旧姓・工藤) 平成25年3月7日 没
 - 山崎 基雄 様(昭和34年生) 平成25年3月28日 没
 - 三宮 健 様(昭和36年生) 平成25年4月21日 没
 - 斉藤 英昭 様(昭和34年生) 平成25年9月11日 没
- ※事務局へ連絡を頂いた方々を掲載させて頂きました。

同窓会川柳

- 田部 修士 見上げる空の 広さかな (昭和11年生 佐藤ナルミ)
- せせらぎや 水引の花 楚々と立つ (昭和11年生 佐藤ナルミ)

親睦ゴルフ「臥牛会」へのお誘い



年4回程度、竹高岡東同窓会の親睦ゴルフ「臥牛会」を開催しております。参加ご希望の方は幹事の高橋敏政さん (mailto:tkat@parker.co.jp) TEL: 03-3275-1238 FAX: 03-3275-1238 までご連絡をお願い致します。会長 松良 修二(昭和34年生)

編集後記

生徒会長の原稿は心が温まります。私が現職の頃、竹田を奥さんと旅行した先輩が「竹田高校の学生は見知らぬ人でも笑顔で挨拶をしてくれる、実に素晴らしい」とうれいコメントを頂いたことを思い出します。この素晴らしい伝統を継承してもらいたいものです。

菅 博敏(昭和40年生)

●連絡先●
〒103-0027
東京都中央区日本橋1-15-1
日本バーカライジング
(広報委員長) 田部 修士 宛
TEL: 03-3278-4350
FAX: 03-3278-4314